

顕著な成果収めた749名

令和8年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰

文部科学省は4月15日、令和8年度「科学技術分野の文部科学大臣表彰」表彰式を省内講堂で挙行了。

文科省では毎年、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を顕彰している。昨年、ノーベル賞を受賞した坂口志文氏、北川進氏のほか、複数のノーベル賞受賞者が同表彰を受けている。

今年度は、科学技術賞の開発部門に13件(50名)、研究部門47件(56名)、技術部門

7件(14名)、理解増進部門6件(22名)を選出。また、40歳未満を対象とする若手科学者賞に101名、研究支援賞に14件(33名)、創意工夫功労者賞に473名が選ばれた。

表彰式には、福田かおる大臣政務官が登壇。受賞者に敬意を示した上で、「科学技術・イノベーションは国内外の社会課題の解決に貢献し、持続可能で強靱な社会を構築する源泉だ。文科省は今年度から始まる第7期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえ、『科学の再興』を通じた新技術立国の実現に向け全力を尽くしていく」と、松本洋平文部科学大臣のあいさつを代読した。その後、各部門の代表者へ表彰状が授与された。

受賞者を代表してあいさつした塩野義製薬(株)創薬研究本部主席研究員の川筋孝さんは「本年、第7期科学技術・イノベーション基本計画が策定され、『科学の再興』や研究力の強化、そして重要な分野を戦略的に進めていく方向性がこれまで以上に明確に示されました。研究者や技術者が思い切った挑戦し、その成果を社会に繋げていく。そうした取り組みを国全体で後押ししていくという姿勢がはつきり打ち出されたものと受け止めています」「このたびの表彰は誠に光栄なことです。同時に私たちに寄せられている期待の大きさを実感する機会でもあります。この受賞を励みにこれからも学び続け、微力ながら社会に貢献していきたい」と語った。



「文部科学大臣表彰」表彰式。公務で欠席した松本大臣の代わりに、受賞者に表彰状を手渡す福田政務官(中央④)



塩野義製薬の川筋さんに寄せられている期待の大きさを実感する機会でもあります。この受賞を励みにこれからも学び続け、微力ながら社会に貢献していきたい」と語った。

文科省、INSIGHT事業

重要産業分野における研究開発・人材育成へ

文部科学省は4月3日、「産業・科学革新人材事業」(通称・INSIGHT)に関する基本方針を策定した。人工知能(AI)や半導体、量子技術など先端技術分野における国際競争が激しさを増している中、同事業を通じて、産学間で人材の流動性を高め、日本全体の研究力向上につなげたい考えだ。

INSIGHT事業は、2025年度補正予算で措置された総額270億円の基金を活用して実施するもの。基本方針では、「(世界各国と比べ)我が国では、国、アカデミア、産業界いずれにおいても研究開発や人材に対する投資、人材交流が低迷している」と指摘し、①産学官による先端技術分野設定②産業

界から大学への投資拡大③大学の人事給与マネジメント改革の3つの方針を掲げ、事業を推進するとした。

対象となる研究領域・分野は「物理化学・工学領域」「機械・電気(電子)技術領域」「資源・エネルギー技術領域」「情報・通信技術領域」「生命科学・化学領域(医療分野に限定した研究開発に係るものを除く)」の5分野。4月以降公募を開始し、夏頃に大学20校程度を採択する。事業期間は2026(2031年度)の6年間。支援規模は1大学あたり最大で年間5億円程度とし、事業期間終了後も見据えて、民間投資を拡大するよう求める。